

能 山
舞 熊
囃 野
子 姥

宇 宇
高 高
徳 竜
成 成

山姥

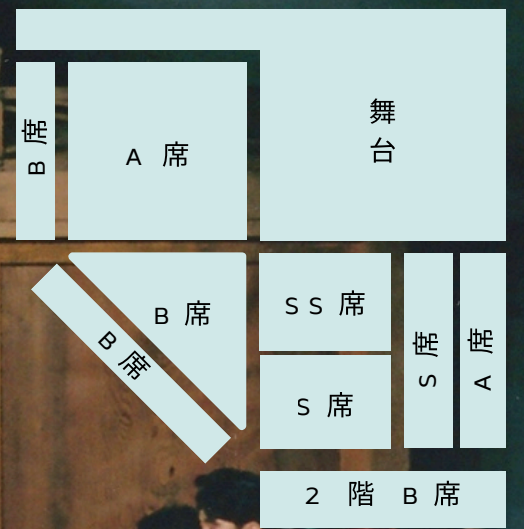


日時 令和8年9月27日(日)
午後2時開演(午後1時開場)

会場 金剛能楽堂
京都市上京区烏丸中立売上ル
市営地下鉄烏丸線
今出川駅6番出口より徒歩5分

入場料 指定席
SS席 12,000円
S席 10,000円
A席 8,000円

自由席
B席 6,000円
学生席 3,000円(※B席のみ)



7月1日正午より販売開始!

- チケット予約サイト **teket**
電子チケット・座席指定・カード決済・コンビニ支払可能
URL <https://teket.jp/1133/71940>
- 竜成の会 事務局 info@tatsushigenokai.com
チケットをお届けします(お支払方法は振込みになります)
- 金剛能楽堂 TEL 075-441-7222
自由席のみお取り扱い(指定席のお問合せは竜成の会事務局へ)



宇高通成七回忌追善
第二十四回 宇高青蘭能之会

令和8年9月27日(日)
於 金剛能楽堂
開場 13:00 開演 14:00

京都市・KBS京都・京都市芸術文化協会 後援

The 24th Udaka Seiran Noh no Kai

Tickets can be purchased through the TEKET reservation site via the QR code above, starting at 12:00 AM on July 1, 2026. English pamphlets will be available on the day of the event. For inquiries, please contact us at the email address below.

Email info@tatsushigenokai.com



※上演中の許可のない写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。
※公演中止の場合を除き、払い戻しは致しません。

第二十四回 宇高青蘭能之会

午後二時開演
於 金剛能楽堂

ご挨拶 (三十分)

舞囃子

宇高姉弟

熊野

シテ 宇高德成

大鼓 谷口正壽
小鼓 曾和鼓堂

笛 鈴木麻里

狂言

鬼瓦

シテ 茂山逸平

大鼓 鈴木実
小鼓 井口竜也

休憩 三十分

能

ツレ 向井弘記

山姥

シテ 宇高竜成

ワキ 小林 努

ワキツレ 宝生朝哉

アイ 茂山逸平

後見 廣田幸稔

金剛永謹 豊嶋幸洋

大鼓 谷口正壽
小鼓 曾和鼓堂

大鼓 前川光長
笛 杉 市和

重本昌也
豊嶋晃嗣

今井克紀 今井清隆
宇高德成 金剛龍謹

廣田泰能
種田道一

終了予定 午後五時頃

ご挨拶

平素より宇高姉弟の活動に格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。
昨年九月に開催いたしました「第二十三回 宇高青蘭能之会」には、多くの皆様にご来臨賜り、厚く御礼申し上げます。

本年は、宇高青蘭能之会を創設いたしました亡父・通成の七回忌にあたります。

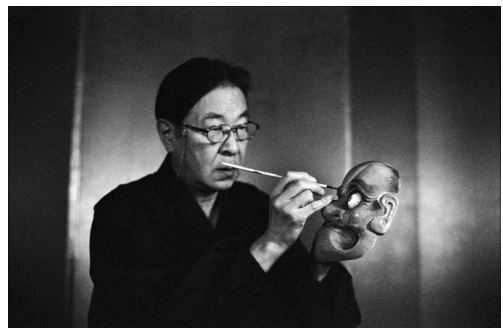
追善の思いを込め、舞囃子「熊野」を徳成が、能「山姥」を竜成が勤め、長子の景子が本年も能面制作を担当いたします。

また、ロビーには父の在りし日の姿を収めた写真を展示し皆様とともにその面影を偲ぶひとときを設けております。

こうして追善の舞台を相勤めることができますのも、ひとえに皆様の温かいご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。
本年も皆様の心に残る舞台となりますよう、なお一層精進を重ねて参る所存です。

皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。

宇高景子 宇高竜成 宇高德成



故 宇高 通成

主催 松山景雲会
共催 竜成の会
能面制作 宇高景子
制作 竜成の会事務局
後援 京都市・KBS京都・京都市芸術文化協会

熊野

平宗盛に寵愛された女性・熊野（ゆや）は、遠江国池田宿の遊女でありながら、和歌にも優れた才色兼備の女性として知られています。

熊野は、病に伏す老母を見舞うため故郷へ帰りたく願いますが、宗盛はそれを許しません。折しも春爛漫の清水寺への花見に同行することとなり、熊野は満開の桜を前にしても母を思う気持ちに心を曇らせていました。

花見の宴において、宗盛は熊野に舞を命じます。しかし熊野の心は、病床の母を案じる思いで満たされていました。舞の後、熊野は「いかにせん都の春も惜しけれど 馴れし東の花や散るらん」と詠みます。都の春の美しさを惜しみながらも、故郷に残した母を思う切なる心が込められたこの和歌に、宗盛は深く心を動かされ、ついに帰郷を許します。熊野は喜びながら都を後にし、故郷へと急ぐのでした。（今回は舞囃子で上演いたします。）

山姥

都で「百魔山姥」（ひやくまやまんば）と呼ばれた遊女が、親の十三回忌の追善のため善光寺へ向かいます。越中・越後の国境にある境川に着き、地元の人々の案内で険しい上路越を進みますが、山中で俄かに日が暮れ、行き暮れてしまっています。

すると一人の女が現れ、「宿を貸しましょう」と遊女を庵へ案内します。女は自らを山姥と明かし、「世に伝わる山姥の曲舞を謡い、私を輪廻の苦しみから救ってほしい」と頼みます。

遊女が驚きながらも曲舞を謡おうとすると、山姥は「月の出る頃になれば、真の姿を現して舞をお見せしましょう」と言い残して姿を消します。

やがて月が昇ると、山姥は鬼女の姿となって現れ、遊女の謡う曲舞に合わせて舞います。そして山々を巡り歩く山姥の世界を示した後、名残を惜しみながら別れを告げ、山また山を駆け巡って、行方知れずとなります。

PROFILE

金剛流能楽師・宇高通成の長女・景子（能面師）、長男・竜成（能楽師）、次男・徳成（能楽師）の三姉弟。能楽師であり能面師でもあった父の影響を色濃く受け、幼少の頃から能楽の世界に身を置く。



景子は能面師として活動の傍ら、世界的に有名なゲーム「Apex Legends」やファッションブランドmiu miuとコラボレーションする等、国内外のメディアに登場し、祇園祭「綾傘鉾」の御神面の複製を手掛けるなど様々な挑戦を続けている。

竜成は自身の会「竜成の会」を主宰し、Youtubeチャンネルを運営、海外アーティストとの交流を深めるなど幅広い活動をしている。

徳成は宇高家の能楽師としてのルーツである愛媛県松山市での普及活動に務め、新作能の創作にも挑戦している。また俳優への演技指導など多岐に渡る活動をしている。本公演をはじめ、竜成・徳成の能楽師が舞台上で使用する能面を景子が制作するという挑戦を続けている。